

## 病虫害発生予察特殊報 第3号

害虫名：ナスコナカイガラムシ  
学名：*Phenacoccus solani* Ferris  
発生作物：ピーマン

### 1 発生確認経過

平成25年9月、県南部地域の施設栽培のカラーピーマンにおいて、葉及び果実にすす状の汚れが発生し、コナカイガラムシ類の発生が確認された。

名古屋植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未発生のナスコナカイガラムシであると同定された。

本種は、国内では、平成15年に高知県で初めて報告された。これまでに愛知県、岐阜県、群馬県など1府9県で発生が確認され、特殊報が発表されているが、本県では初確認である。また、国外では北米、中南米に広く分布するほか、寄主植物とともに移出、定着したものがハワイ、ミクロネシア、南アフリカ等から発見されている。

### 2 形態

雌成虫は、長楕円形で体長3～5mm。体色は灰色で、体表は白色粉状の分泌物で覆われる。体周縁のロウ物質の突起は18対あるが、極めて短い(図1)。

### 3 生態と被害

(1) 雌のみによる単為生殖で卵胎生(卵のうを形成せず直接産仔)を行う。3齢幼虫を経て成虫となり、年に数世代を繰り返す。

(2) 広食性で、寄生植物は雑草を含むキク科(キク、アスター、ヘリアンサス、ノゲシなど)、クサトベラ科(スカエボラ)、ナス科(ナス、ピーマン、トマト、タバコ、ジャガイモなど)、スミレ科(パンジー)、ミカン科(ライム)、マメ科(ササゲなど)、ベンケイソウ科(エケベリア)、アブラナ科(ダイコン、キャベツ)、スベリヒユ科(ポーチュラカなど)、ラン科(デンドロビウム)、ショウガ科(クルクマ)、アヤメ科(アイリス)、ヒガンバナ科(アマリリス、スイセンなど)、ユリ科(アスパラガスなど)、など30科に及ぶとされ、野菜類、花き類、観葉植物、果樹類など広範囲の植物を加害する。

国内では施設栽培のピーマン、とうがらし類(甘長とうがらし、シシトウ)、なす、きゅうり、スイゼンジナ、きく、パンジーで発生が確認されている。

(3) 主に葉、茎に寄生し、多発すると果実にも寄生がみられる。成・幼虫の吸汁による生育障害や、排泄物によるすす状の汚れによって葉や果実などの外観品質が低下する。(図2)

### 4 防除対策

(1) ピーマンのコナカイガラムシ類を対象として、チアメトキサム剤(アクタラ顆粒水溶剤)が登録されている。

- (2) 既発生県では、減農薬栽培ピーマンなどで本種の発生を確認しており、減農薬栽培や無農薬栽培では注意が必要である。
- (3) 初期はほ場の一部に発生し、その後拡大していくことから、ほ場内をよく観察して早期発見に努め、見つけ次第捕殺するか、発生部位を除去する。
- (4) 本種は寄主範囲が広く、観葉植物や雑草などにも寄生する可能性があるため、これらの植物の持ち込みを控え、施設内外の除草に努める。



図1 ナスコナカイガラムシ  
(南信農業試験場 提供)



図2 果実のすす状の汚れ

長野県病虫害防除所  
所長：中澤 伸夫  
担当：南島誠・嵯峨裕之  
TEL：0263-53-5642（直通）  
FAX：0263-54-4508  
E-mail：bojo-y@pref.nagano.lg.jp